

## アサザプロジェクトの環境学習出前授業

水辺の体験 八郎湖観察学習～昔の八郎湖と今の八郎湖の違いについて～

### 活動を行う団体

認定 NPO 法人アサザ基金、NPO 法人草木谷を守る会、  
潟上市立飯田川小学校

### 活動の実施場所

八郎湖湖岸とその周辺の河川（秋田県潟上市）

### 活動の概要



八郎湖旧湖岸を観察して昔の八郎湖の環境を学ぶ

霞ヶ浦は、水質の汚濁や漁業の衰退、森林の減少、人口の増加などの問題を抱えています。1995年に始まった「アサザプロジェクト」は、湖岸植生帯の復元、水源の山林や水田の保全、外来魚駆除、放棄水田を生かした水質浄化などを、大学や企業の先端研究、地域振興、環境教育と一体化しながら流域全体で展開してきました。

2004年から、秋田県内の25校で出前授業を実施してきました。霞ヶ浦と同じような課題を持つ八郎湖があることから、秋田県の要請を受けて始まりました。八郎湖の環境再生と地域活性化が一体化した「持続可能社会モデルの構築」と「未来を担う子どもたちの人材育成」を目指すプロジェクトを行っています。

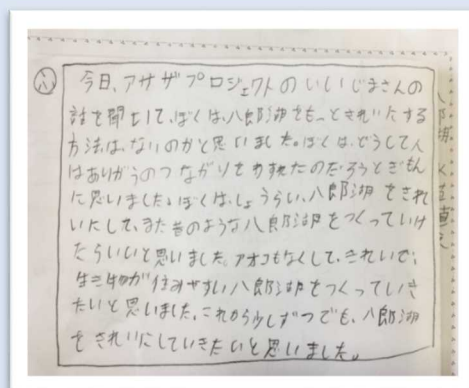
2018年は、地元のNPOの協力をいただきながら、「八郎湖を昔のように自然豊かな水辺に戻すにはどうしたら良いか」をテーマに、潟上市立飯田川小学校4年生と共に様々な活動を進めています。

植生帯が残っている昔の八郎湖に近い川辺で、生き物調査を実施し、その後、コンクリートで湖岸を固められた現在の八郎湖の様子を観察し、こちらでも生き物調査をしました。

それぞれを比較することで、どうして湖の水が汚れてしまったのか。なぜ生き物が住みにくいのか、私達で、できることは何だろう、ということをお話合っています。今後、まとめの授業をして流域での米作りをテーマに学習する5年生につなげていく予定です。



八郎湖で生き物の調査をする小学生



出前授業を受けた児童の感想文